

ずいそう

友，群れ集う卒業生

尾崎 幸 男

スコットランドの諺に、「18年間同じ職場にいるよりも、18ホールですべてがわかる」というのがあります。球聖といわれるボビー・ジョーンズの残した次の言葉にすべてが集約されます。「人生の最後に、いくらかの財産を得たかではない。何人のゴルフ仲間を得たかである」これがまさに人生！（This is the Life!）でしょう。再びスコットランドです。古い歌に、

1. 飛距離自慢の幼稚園，
2. スコアにこだわる小学生，
3. 景色が見えて中学生，
4. マナーに厳しい高校生，
5. 歴史が分かって大学生，
6. 友，群れ集う卒業生，

というのがあります。最後のフレーズが、ボビー・ジョーンズという言葉となり、この‘ずいそう’の題名です。

1. 飛距離自慢の幼稚園

タイガーウッズや伊沢利光，かつての尾崎将司の才能と体力には遙かに及ばないにしてもドライバーショットは飛ばしたいですね。自動車のドライブに語源がありますが，無限の飛距離を期待させます。ゴルフの快感をドライバーの飛距離に求める方が非常に多いのではないのでしょうか。「Drive for show, approach for golf, putt for dough (money.) アメリカ/作者不詳」，「パッティングに優れたものは常に勝つ。イギリス/ウィリー・パーク・ジュニア」。

2. スコアにこだわる小学生

ゴルフは自然が相手の競技であり，そこには，ボールはあるがままの状態プレーする(Play the ball as it lies.)という基本精神が流れています。私の経験で言うと，常に6インチプレースをし，アンプレアブルなど宣言したことがないというスコア至上主義の方もおります。「多くの初心者は，ゴルフ・スイングの基本を理解する前にスコアを付けようとする。これは歩くことができる前に走ろうとするようなものだ。アメリカ/ジーン・サラゼン」。

3. 景色が見えて中学生

多少腕が上がるとゴルフコースや周りの景色が見えてきます。草花や木々の息ぶき，大地と川や池，鳥，風，雲など自然が身近になるレベルです。コース設計者の意図を見破ってゲームプランを立てたり，向上心を持ってより難しいとされるコースに挑戦したり，ゴルファーの姿勢が表れます。「セント・アンドリュースのオールド・コースが，ゴルフのもっとも偉大な試練の道場といわれるのは，大自然が創造したからだ。いかなる設計者も，これと同じものをつく



ることはできないし、またそのような企てをするほど世にも愚かなことはない。イギリス/ロバート・トレント・ジョーンズ」,「風を嫌ってはならない。風こそはこの上もない立派な教師だ。風はゴルファーの長所と欠点とを、はっきり教えてくれるからだ。イギリス/ハリー・バートン」。

4. マナーに厳しい高校生

ゴルフはレフェリーのいない自己申告の競技です。このため、「Play the ball as it lies.」という基本精神の基に、プレーヤーにマナーとエチケットが要求されます。「あるがまま」、これがルールの原点です。ジャック・ニクラウスは回想録の中で、プレー中にタバコを吸っている自分の姿を試合後のニュースで見て、愕然としたとい

います。「これがスポーツをする競技者の姿なのか、将来ゴルファーを目指す子供たちに醜い姿をさらすのは止めなければいけない。」ということで、タバコと縁を切ったそうです。「法律は悪人が存在するものとして作られているが、ゴルフルールは、故意に不正をおかすプレーヤーはいないという前提で作られている。大谷光明」。

5. 歴史が分かって大学生

織田信長など日本人同士が殺戮を行っていた頃、ヨーロッパではゴルフ競技が行われていたという400年の歴史と、その後のアメリカでの興隆を見ると、ゴルフが伝わってから100年のわが国とはまだまだゴルフの思想・文化や技術など大きな壁がありそうです。日本人がメジャーで勝てない理由が見えてきます。「人間の機知が発明した遊戯で、ゴルフほど健康な保養と、爽快な興奮と、つきることのない楽しさの源泉とを与えるものはない。イギリス/アーサー・バルフォア」,「ゴルフは体力よりも、主として『耳と耳との間のもの』によってプレーされるゲームである。アメリカ/ボビー・ジョーンズ」。

6. 友、群れ集う卒業生

ゴルフは性別や年齢に関係なく、誰でも末永く楽しめるスポーツです。朝早くから夕方、時には夜遅くまで、一日を満喫するためには健康でなければなりません。しかしプレーが終わってからの最後の楽しみは「19番ホール」での乾杯が待っています。まさに、群れ集う友との語りがあります。

「ゴルフはスポーツのエスペラントである。イギリス/ロード・ブラバズン・オブ・タラ」,「ゴルフの1ラウンドは18ホールからなっているが、真の完全なラウンドは、19番ホールで終わるのだ。イギリス/ハーバート・アダムス」。

なお、写真は、ミレニアム最後の公式競技(2000年12月)月例杯で初優勝したときのものです(至福の表情)。おまけにベストグロス賞もいただきました。

—おざき さちお 財団法人電力中央研究所上席研究員—